

平成26年度

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書



滝川市いじめ根絶シンボルマーク最優秀作品

平成27年11月

滝川市教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、その報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。また、その際、客観性を確保する観点から、教育委員会以外の学識経験者による知見の活用を図ることとされています。

滝川市教育委員会は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため、学識経験者、保護者、関係団体から成る「滝川市教育委員会の権限に属する事務の外部評価会議」からご意見等をいただきながら、平成24年度から執行している「滝川市教育推進計画」に基づき、教育委員会の事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、報告書を作成いたしました。

この点検・評価報告書を通じて施策の効果の検証と改善を図りながら、教育施策を着実に推進していきたいと考えていますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成27年11月

滝川市教育委員会

目 次

1 教育委員会の活動状況について

(1)教育委員会の会議の開催状況	1
(2)条例・規則等の制定、計画等の策定状況について	5

2 教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書

(1)点検・評価の視点	6
(2)点検・評価の流れについて	6
(3)評価の方法について	6
(4)点検・評価項目について	7
I-1 確かな学力の育成	8
I-2 豊かな人間性の育成	9
I-3 健やかな体の育成	10
II-4 意欲と指導力のある教職員の育成	11
II-5 安全安心な学校づくりの推進	12
II-6 市立高等学校の充実	13
II-7 特色と魅力のある学校づくりの推進	14
III-8 特別支援教育の推進	15
III-9 不登校等問題行動のある児童生徒への支援の充実	16
IV-10 地域の教育力を活用した家庭・地域への支援の充実	17
IV-11 子どもに関わる施策や活動との連携	18
V-12 「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進	19
V-13 健康な心と体を養うスポーツ活動の推進	20
V-14 文化・芸術活動の創造・育成の支援	21
V-15 文化財保護・活用の推進	22
V-16 図書館活動の充実	23
V-17 博物館活動の充実	24
V-18 社会教育施設の整備充実	25

1 教育委員会の活動状況について

(1)教育委員会の会議の開催状況

滝川市教育委員会の会議は原則として公開で、毎月1回を基本として開催するほか、必要に応じて臨時会議を開催しています。また、滝川市教育委員会が所管する事項について調査及び研究を行うことにより様々な教育課題に対する活発な議論を行うため、滝川市教育委員協議会を設置しています。

①教育委員会議

12回開催しました。

H26.04.28	報 告	①3月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ②滝川市における温水プール運営事業補助金交付要綱の改正について
	議 案	議案第1号 滝川市就学指導委員会議規則の一部を改正する規則 議案第2号 滝川市社会教育委員の委嘱について 議案第3号 滝川市就学指導委員会議委員の選出について
	その他	滝川市いじめ防止基本方針について 各所管の年間業務計画について 運動会の日程について
H26.05.26	報 告	①教育部補正予算について ②4月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ③一般財団法人滝川生涯学習振興会の経営状況について
	議 案	選挙第1号 委員長の選挙について 議案第1号 委員長職務代理者の指定について 議案第2号 滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則 議案第3号 滝川市教育委員会事務局事務決裁規程の一部を改正する規程 議案第4号 滝川市教育委員会事務局職員の職名に関する規則の一部を改正する規則 議案第5号 滝川市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について 議案第6号 滝川市いじめ防止専門委員会委員の委嘱について
	その他	滝川市いじめ防止基本方針について
H26.06.30	報 告	①第2回市議会定例会一般質問について ②5月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ③社会教育施設の利用状況について ④公立高等学校配置計画案(平成27年度～平成29年度)について
	議 案	議案第1号 学校職員の処分内申について
	その他	平成26年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会について

H26.07.29	報 告	①入札執行状況(4月～6月分) ②6月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ③いじめの問題に関する児童生徒の実態把握に係る調査の概要と考察 ④第1回滝川市いじめ問題対策連絡協議会の議事概要について ⑤第1回滝川市いじめ防止専門委員会の議事概要について
	議 案	議案第1号 滝川市立学校職員服務規程の一部を改正する規程 議案第2号 平成27年度から使用する小学校用教科用図書の採択について 議案第3号 平成27年度に使用する中学校用教科用図書の採択について
	その他	滝川市子どものいじめ防止基本方針について 外国語指導助手の採用について
H26.08.21	報 告	①教育部補正予算について ②車両損傷事故による損害賠償額の決定について ③滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議について ④7月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ⑤第2回滝川市いじめ問題対策連絡協議会の議事概要について
H26.09.30	報 告	①第3回市議会定例会一般質問について ②8月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ③滝川市文化財の指定の解除について
	その他	全国学力・学習状況調査の公表について
H26.10.30	報 告	①第2回滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議について ②9月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ③入札執行状況(7月～9月分)
	議 案	議案第1号 道費負担教職員の任免に係る内申について
	その他	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の公表について
H26.11.27	報 告	①教育部補正予算について ②滝川市立滝川第三小学校改築工事に係る工事請負契約の変更について ③10月分児童生徒の教育相談等における状況報告について
	議 案	議案第1号 滝川市学校給食費の徴収及び管理に関する条例 議案第2号 滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書について
H26.12.26	報 告	①第4回市議会定例会一般質問について ②インフルエンザ様疾患発生について ③11月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ④就学指導委員会議の答申について ⑤いじめの問題に関する児童生徒の実態把握に係る調査の概要と考察について ⑥社会教育施設の整備スケジュールについて ⑦成人式の実施について
	その他	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の公表について

H27.01.27	報 告	①12月分児童生徒の教育相談等における状況報告について
	議 案	議案第1号 滝川市学校給食費の徴収及び管理に関する条例施行規則 議案第2号 滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則
H27.02.20	報 告	①教育部補正予算について ②入札執行状況(10月～12月分) ③1月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ④出願状況について
	議 案	議案第1号 平成27年度教育予算について 議案第2号 滝川市教育委員会教育部の公の施設の指定管理者の指定に係る管理期間の特例に関する条例 議案第3号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例及び教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例 議案第4号 滝川市学校給食共同調理場設置条例の一部を改正する条例 議案第5号 滝川市文化センター条例の一部を改正する条例 議案第6号 滝川市青年体育センター条例の一部を改正する条例 議案第7号 滝川市サイクリングターミナル条例を廃止する条例 議案第8号 公の施設の指定管理者の指定について(滝川市スポーツセンター) 議案第9号 滝川市の公の施設の赤平市民の利用について
	その他	卒業式について 滝川市立小中学校の校長・教頭の住宅について
H27.03.27	報 告	①第1回市議会定例会一般質問等について ②2月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ③平成26年度卒業式における国旗・国歌の実施状況について ④長期欠席児童生徒状況確認調査の結果について ⑤平成26年度卒業生進路決定状況について ⑥滝川スポーツセンターの建物等贈与契約書の締結について ⑦滝川スポーツクラブサンのプールエリア改修工事の実施予定について
	議 案	議案第1号 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係規則の整備等に関する規則 議案第2号 滝川市教育委員会傍聴規程の一部を改正する規程 議案第3号 滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則 議案第4号 滝川市就学指導委員会議規則の一部を改正する規則 議案第5号 滝川市教育支援センター条例施行規則の一部を改正する規則 議案第6号 滝川市文化センター条例施行規則の一部を改正する規則 議案第7号 滝川市郷土館条例施行規則等の一部を改正する規則 議案第8号 滝川市美術自然史館条例施行規則の一部を改正する規則 議案第9号 滝川市青年体育センター条例施行規則の一部を改正する規則

		議案第10号 滝川市サイクリングターミナル条例施行規則を廃止する規則 議案第11号 滝川市文化財保護審議会委員の委嘱について 議案第12号 滝川市スポーツ推進委員の委嘱について 議案第13号 道費負担教職員の任免に係る内申について 議案第14号 滝川市立学校教員及び滝川市教育委員会事務局職員の任免について
	その他	入学式について 辞令交付式

②教育委員協議会

12回開催しました。

開催日	調査及び研究内容
H26.04.28	・学校の魅力づくり事業について
H26.05.26	・滝川市子どものいじめ防止基本方針について ・学校の魅力づくり事業に係るプレゼンテーションについて
H26.06.30	・全国学力・学習状況調査の公表について ・学校の魅力づくり事業に係るプレゼンテーションについて
H26.07.29	・全国学力・学習状況調査の公表について
H26.08.21	・平成26年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会の分散会について ・全国学力・学習状況調査の公表について
H26.09.18	・全国学力・学習状況調査の公表について
H26.09.30	・滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価について
H26.10.30	・滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価について
H26.11.27	・平成26年12月3日 市長との懇談会での基本施策について
H26.12.26	・平成27年度予算要求の概要について
H27.01.27	・平成27年度予算要求の概要について
H27.03.27	・体罰に係る実態把握について ・「長期欠席児童生徒状況確認調査」の結果に係る個別状況について

(2) 条例・規則の制定状況等について

平成26年度に制定又は改正された教育関係条例の数は7件、教育委員会規則の数は14件です。(施行年月日がH26.5.1～H27.4.1のもの)

①教育関係条例等

題 名	施行年月日
滝川市学校給食費の徴収及び管理に関する条例	H27.4.1
滝川市教育委員会教育部の公の施設の指定管理者の指定に係る管理期間の特例に関する条例	H27.3.26
特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例及び教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例	H27.4.1
滝川市学校給食共同調理場設置条例の一部を改正する条例	H27.4.1
滝川市文化センター条例の一部を改正する条例	H27.4.1
滝川市青年体育センター条例の一部を改正する条例	H27.4.1
滝川市サイクリングターミナル条例を廃止する条例	H27.4.1

②教育委員会規則

題 名	施行年月日
滝川市就学指導委員会議規則の一部を改正する規則	H26.5.1
滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則	H26.5.26
滝川市教育委員会事務局職員の職名に関する規則の一部を改正する規則	H26.5.26
滝川市学校給食費の徴収及び管理に関する条例施行規則	H27.4.1
滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則	H27.4.1
地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係規則の整備等に関する規則	H27.4.1
滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則	H27.4.1
滝川市就学指導委員会議規則の一部を改正する規則	H27.4.1
滝川市教育支援センター条例施行規則の一部を改正する規則	H27.4.1
滝川市文化センター条例施行規則の一部を改正する規則	H27.4.1
滝川市郷土館条例施行規則等の一部を改正する規則	H27.4.1
滝川市美術自然史館条例施行規則の一部を改正する規則	H27.4.1
滝川市青年体育センター条例施行規則の一部を改正する規則	H27.4.1
滝川市サイクリングターミナル条例施行規則を廃止する規則	H27.4.1

2 教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について

(1) 点検・評価のための視点

点検・評価に当たっては、次の視点を持って進めます。

① 市民の視点

市民やサービスの受け手、関係する企業や団体などの公的サービスに対するニーズの多様化や変化を的確に把握し、迅速に対応できているか、お客様の視点に立って仕事のあり方を見直します。

② 職場活性化の視点

職員が自らの仕事のあり方について評価することで、仕事を客観的に見つめ直し、コスト意識やサービス精神の改善につなげるとともに、一人ひとりが組織目標を常に考え、柔軟で効率性を考えた取組を進めます。

(2) 点検・評価の流れについて

① 点検・評価シートの作成

事業・事務の成果を分析・検証するために点検・評価シートを作成します。



② 外部評価の実施

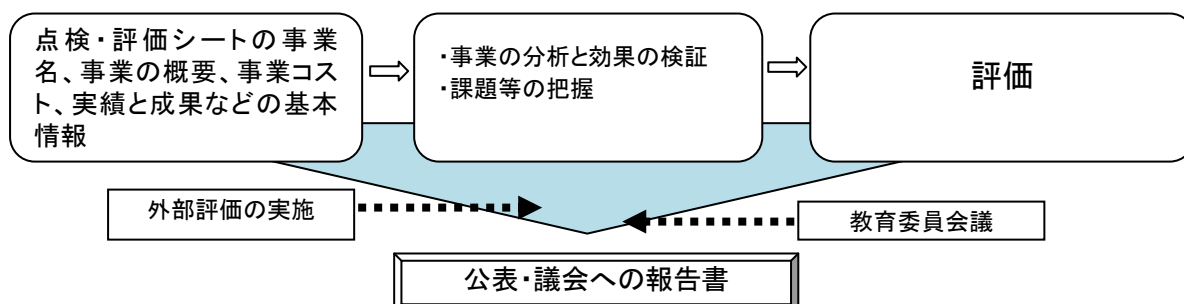


主管課長が作成した点検・評価シートに基づき、学識経験者等と各課とのヒアリングを実施し、内部評価に対して客観的な意見を述べていただきます。

③ 点検・評価の報告書作成

(3) 評価の方法について

① 点検・評価のあらまし



②項目別評価

事業の成果を測定するとともに課題を把握し、より良い事業の展開に向けた改善へとつなげていくため、次の2つの視点で評価を行いました。

評価の視点

評価の視点	項目の説明
期待どおりの効果があったか	事業の目的を達成するために行った事業について、効果等を分析・検証した結果、期待する成果があったか。
施策の目的を達成するため、事業の見直し等の余地があるか	上記について、より成果を上げるため、事業の見直しを行う必要があるか。

ランク	内 容
A	期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する
B	ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある
C	概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である
D	期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

(4) 点検・評価項目について

平成24年度からは「滝川市教育推進計画」に基づき点検・評価を行いました。

施策項目一覧

- I-1 確かな学力の育成
- I-2 豊かな人間性の育成
- I-3 健やかな体の育成
- II-4 意欲と指導力のある教職員の育成
- II-5 安全安心な学校づくりの推進
- II-6 市立高等学校の充実
- II-7 特色と魅力のある学校づくりの推進
- III-8 特別支援教育の推進
- III-9 不登校等問題行動のある児童生徒への支援の充実
- IV-10 地域の教育力を活用した家庭・地域への支援の充実
- IV-11 子どもに関わる施策や活動との連携
- V-12 「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進
- V-13 健康な心と体を養うスポーツ活動の推進
- V-14 文化・芸術活動の創造・育成の支援
- V-15 文化財保護・活用の推進
- V-16 図書館活動の充実
- V-17 博物館活動の充実
- V-18 社会教育施設の整備充実

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	I-1	施策名	確かな学力の育成
------	-----	-----	----------

事業の 目的	学ぶ意欲を高め、望ましい学習習慣を身に付けさせるとともに、自ら学び、自ら考え行動する力を育み、身につけた知識・技能を活用する能力の育成を図ります。そのため児童生徒の学力の実態を把握し、指導方法の改善を図るなど、個に応じたきめ細やかな学習指導を行います。
主要事業 今年度の	①少人数指導や習熟度に応じた指導の推進 ②放課後学習、家庭学習など学習習慣化の推進 ③少人数学級実践研究事業(小学校3・4年生35人学級)の推進 ④学びサポーターの全校配置 ⑤外国語指導助手を活用した外国語教育の充実
事業の実績と分析	①少人数指導(T・T指導)や習熟度に応じた指導の推進・・・小学校算数の基礎基本の定着を図ることができ指導の成果が見られた。配置数 小学校6人 中学校2人(前年度から1名減) ②放課後学習、家庭学習など習慣化の推進・・・「家庭学習の手引き」の活用を図った。 ③小学校3・4年生の35人学級・・・きめ細かい見守りと指導の充実ができ、また教師が子どもと向き合う時間が増え個別の支援に成果があった。26年度⇒第一小4年生・第二小4年生 ④学びサポーターの全校配置・・・困り感のある子の学習支援や発達に課題のある子など個別の指導と支援をはかり、担任と連携により安定した学級運営と指導支援の向上に成果があった。26年度⇒14人配置 ⑤外国語指導の充実・・・英語教師のアシスタント役としてALTを5名配置して、英語教育の充実を図った。
課題	①少人数指導や習熟度に応じた指導の推進・・・複数配置や習熟度配置の際の指導内容の一層の充実が必要 ②放課後学習、家庭学習など習慣化の推進・・・学校と保護者が連携した取り組みの充実が必要 ③小学校3・4年生の35人学級・・・5・6年生に40人学級に戻ることから、少人数指導の充実が必要 ④学びサポーターの全校配置・・・発達に課題のある子、相談室登校の子への支援策の充実が必要 ⑤外国語指導の充実・・・ALTの効果的な活用を進め、子どもたちの興味関心を高める取り組みが必要

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 学力向上の施策や滝川独自の人的配置の取組などの施策により、基礎基本の定着も見られた。家庭学習の習慣化は、引き続き課題である。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 少人数学級実践事業の対象学年の拡充や家庭学習の習慣化につながる施策の充実を図りたい。

事業の今後の方向性	27年度も引き続き施策を継続するとともに、学力や学習意欲が高まる施策を展開する。 ■拡充 □縮小・統廃合 □質的向上 □スピードアップ □検証 □継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	I -2	施策名	豊かな人間性の育成
------	------	-----	-----------

目的 事業の	子どもの発達段階に応じた、規範意識や公正な判断力、粘り強くたくましく生きる力、自他の生命を尊重する心、共に助け合って生きることの体得など、基本的な倫理観を身に付けさせるとともに、郷土に愛着を持ち、郷土で育ったことに幸せと誇りを持って語ることができる、日本や世界で活躍する子どもを育成します。
主要 事業 今年度の	①道徳教育の推進 ②心の教育推進事業の充実 ③読書活動の充実
事業の実績と分析	①道徳教育の推進・・・児童生徒に生命を大切に作る心や思いやりの心、倫理観や規範意識など道徳教育の充実のため、道徳の研究授業や実践発表会を通じて教職員の指導資料の発行を行い、その充実が図れた。26年度⇒5校の研究授業と実践発表の資料集の配布 ②心の教育推進事業の充実・・・いじめや不登校など児童生徒の問題行動の実態把握、早期発見・早期対応を図るための体制の充実が図れた。また、学校配置のスクールカウンセラーが教育相談など効果的な活動が出来た。 26年度⇒学校訪問事業年2回実施、スクールカウンセラーの相談件数 小学校406件(25年度596件)・中学校599件(25年度536件) ③読書活動の充実・・・図書館と連携して本に触れる機会を増加させ、学校の朝読書や学級文庫など読書活動の充実が成果があった。
課題	①道徳教育の推進・・・道徳授業の内容が一層充実するよう実践研究や教材開発の支援を行う。 ②心の教育推進事業の充実・・・いじめや不登校等問題行動の対応にあたり、学校と教育委員会が連携して実態把握や子どもの個別の予防対策など、きめ細かい取り組みが必要である。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 「いじめはあってはいけないこと」の意識化は、100%になるよう道徳指導や学校における児童生徒の主体的活動を一層支援し、推進しなければならない。
B	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 子どもたちや保護者等からの情報を得るための相談・通報体制の充実といじめ防止に関わる関係機関・団体との連携を深めることが必要である。

事業の今後の方向性	引き続き事業を実施し、成果を上げるよう推進する。 ■ 拡充 □ 縮小・統廃合 □ 質的向上 □ スピードアップ □ 検証 □ 継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	I -3	施策名	健やかな体の育成
------	------	-----	----------

事業の 目的	規則正しい、望ましい生活習慣の定着や豊かで健全な食生活の実現、運動や遊びを通じた体力の向上、歯の健康を守るための予防活動など、健康で安全な生活を営むための自己管理能力のある子どもの育成を推進します。
主要事業 今年度の	①食育の推進(バランスの良い栄養摂取と食事マナーを身につけさせるとともに、生産者等を通じて地場産品の学習、交流給食の実施等) ②歯科など保健指導の推進(むし歯の予防、小学校におけるフッ化物洗口の全校実施) ③体力向上の推進
事業の実績と分析	①食育の推進・・・各小学校において農業体験活動や生産者を招いた交流給食を実施したり、たまねぎやアスパラ、完熟トマト、リンゴ等地場産食材を積極的に活用した献立内容の充実を図るなど、食育の推進に努めた。 朝食の摂取率は、小学6年生が全道平均を上回り上昇したが、中学3年生は前年度を下回り、約1割の生徒が朝食を摂らずに登校していることから、引き続き食育指導及び生活習慣の改善に向けた取り組みが必要である。 ②歯科など保健指導の推進・・・24年度より市内全小学校においてフッ化物洗口事業が開始となり、26年度においては、目標率の達成はできなかったものの引き続き実施率が向上しており、事業の効果が期待できる。 ③体力向上の推進・・・教育振興会による体力向上事業や各小学校が1年生から新体力テストの一部実施、授業以外での体力向上に関する取り組み等を行ったが、全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果は全国平均を下回った。
課題	①食育の推進・・・食育の推進については、給食の時間や学級活動等における取り組みを促進するとともに、子どもに規則正しい生活環境を定着させるため、就学前からの取り組みを関係機関と連携し充実させることが大切である。 ②歯科など保健指導の推進・・・フッ化物洗口事業については、24年度中途からの全小学校での実施のため、効果の検証は現時点では難しいが、毎年度の歯科検診結果等により、事業効果の検証を進めていく必要がある。 ③体力向上の推進・・・調査結果等の分析をした上で、学校ごとに目標を設定したり、校内研修を実施するなど体力向上を図る取り組みを進めていく必要がある。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか フッ化物洗口事業は全小学校での実施を継続し、実施率も前年度を上回っているほか、食育の推進についてもほぼ期待どおりの効果が得られたが、体力向上については、全国調査の結果からは十分な成果は得られなかった。
B	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 体力の向上については、各校の状況に応じた体力向上に向けての取り組みを進めていくことが必要である。

事業の今後の方向性	来年度以降も食育の推進及びフッ化物洗口実施率の向上に向けて引き続き取り組んでいく。また、小中学生の体力・運動能力の向上を図るため、各校が調査結果の状況を踏まえて体育指導に活かす取り組みや校外活動において体力向上に向けた取り組みを推進するよう働きかけるとともに、教育振興会による体力向上事業を推進していく。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	Ⅱ-4	施策名	意欲と指導力のある教職員の育成
------	-----	-----	-----------------

目的	事業の	意欲のある教職員を育て確保するため、各種研修会への参加を促進させるとともに、授業力や指導力など資質が高められる研修会を実施し、教職員が子どもや保護者との信頼関係を深め、より良い教育ができる環境づくりを推進します。
主要事業	今年度の	①指導主事の学校訪問指導の充実 ②ICTを活用した教職員の授業力の向上 ③教職員研修・研究の充実
事業の実績と分析		①指導主事の学校訪問指導の充実・・・指導主事が学校の経営指導や授業実践についての助言を行い、学校教育の充実と教師の授業力の向上が図れた。 ②ICTを活用した教職員の授業力の向上・・・児童生徒の学習への興味関心を高めるため、ICTを活用した授業の充実を図るため、小学校2校のモデル校を中心にして取り組んでいる。 26年度⇒滝川第三小(タブレット端末) ③教職員研修・研究の充実・・・教職員が、専門職員として高い指導力と技能を身に付けるため、市独自の研修会を企画するとともに、各機関が開催する講座・研修への参加を促進した。 26年度⇒小中教職員の研修参加延人数171人(空知教育センター89人・道研等82人)
課題		①指導主事の学校訪問指導の充実・・・校内研修会への指導主事の参加について検討が必要 ②ICTを活用した教職員の授業力の向上・・・基盤となるICT機器の整備を推進することが必要 ③教職員研修・研究の充実・・・空知教育センター講座への参加者増などを推進する。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか ICT機器の活用については、特に小学校のモデル校では、教職員の活用が進んでいる。全校に活用が広がるよう推進する。
B	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか

事業の今後の方向性	☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☒ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	Ⅱ-5	施策名	安全安心な学校づくりの推進
------	-----	-----	---------------

目的 事業の	学校施設は、児童・生徒が一日の大半を過ごす学習、生活の場であるとともに、災害時には地域の避難場所でもあることから、安全で安心な学校教育環境の整備・充実を図る。
主要 事業 今年度の	①小・中学校改築等施設整備の推進(滝川第三小学校改築事業、滝川第二小学校屋内体育館耐震補強事業、西小学校屋内体育館耐震補強事業、江陵中学校トイレ改修事業) 事業費1,935,537千円 ②学校給食施設について、親子方式による施設整備の推進
事業の実績と分析	①児童生徒の安全を守り良好な教育環境の確保を図るため学校施設の耐震化は責務であり、改築工事や耐震補強工事を行うことは急務である。改築事業等の実施により安全で安心な学校施設の整備が図られた。 ②改築事業やトイレ改修工事の実施により、快適なトイレの整備が図られた。 ③江陵中のトイレ改修工事については、平成27年度施工予定の工事を前倒しすることができた。 ④給食施設整備は、滝川第三小学校共同調理場の建築工事が完了し、平成27年度から滝川第一小学校及び明苑中学校への親子方式を実施している。また、平成27年度に建築工事の着工を予定している西小学校共同調理場の実施設計を行った。
課題	①児童生徒の安全性の確保から早期の耐震化が必要であり、今後も校舎等及び非構造部材の耐震化を進める。 ②給食施設の整備・改修については、滝川第三小学校以降の予算の確保に努め計画的に進めていく。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 計画どおり改築事業を実施し、安全安心な学校施設の整備を進めることができた。江陵中のトイレ改修工事については、計画を前倒しして整備を進める事ができた。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 児童生徒の安全性の確保から、学校施設の早期の耐震化及び給食施設の整備が必要であり、財源を確保しながら計画的に進めていく。

事業の今後の方向性	平成22年2月に策定した「滝川市小・中学校施設整備方針」及び平成23年12月に策定した「滝川市学校給食施設整備方針」に基づき、計画的・効率的に耐震化工事や改築・大規模改修と学校給食施設の整備を行い、平成27年度までに全小中学校施設の耐震化を完了する。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	Ⅱ-6	施策名	市立高等学校の充実
------	-----	-----	-----------

事業の目的	[文武両道]の精神のもと、規律を重んじる校風を高め、地域の期待に応える高校教育を推進するとともに、時代の変化に対応した市立高校の将来を展望したビジョンを策定し、地域や日本、世界に貢献する人材の育成を図る。
主要事業 今年度の	①英語教育及び国際理解教育の推進 ②キャリア教育の充実 ③教育環境の整備・充実
事業の実績と分析	①英語教育及び国際理解教育の推進…全ての授業をオールイングリッシュで実施、JICA等国際機関と連携したグローバル体験の創出、外国語指導助手(ALT)の配置、米国ロングメドール高校への短期留学の実施、ベトナム・カンボジアスタディツアーへの生徒の派遣、滝西・英語教育改善セミナーの開催等、[GTECの校内平均スコア(467.8)や実用英語検定の合格者数(H26卒業者2級4名、準2級44名)などで、生徒の英語力の伸長状況を定期的に把握している。] ②キャリア教育の充実…3年間を見通した計画的なキャリア教育の実施、ガイダンス機能の強化・充実、上級学校の体験学習やインターンシップの参加・実施等[国公立大学への合格者数や就職決定率に効果が反映されている。] ③教育環境の整備・充実…屋上防水改修工事、給油設備等改修工事、グラウンド防球ネット等設置工事、総合実践室、普通科パソコン教室及び職員校務用ノートPC機器更新、生徒用椅子購入(全生徒の椅子が木製から樹脂製へ更新された)[緊急・優先度を考慮して改修・整備している。]
課題	・施設・設備や教材・教具等の改修・整備を計画的に行っているが、施設の老朽化による電気・水道設備等の改修が必要である。 ・西高の特色である英語・国際理解教育の推進にALTの増員が必要である。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 国立大学への合格者や検定合格者は目標には達しなかったが、国立大学合格者は過去2番目の合格者数の19名、就職決定率が5年連続で100%、英語教育におけるGTECの成績・結果が4年連続で全国平均スコアを上回り、入学者定員も2年連続100%など、ほぼ期待どおりの効果を上げていると考える。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 今後ともこれまで同様な施策効果を上げていくためには、施設・設備や教材・教具等の改修・整備を順次行う必要がある。

事業の今後の方向性	市立高等学校は、学習指導と生徒指導の両面について充実した教育活動を行っており、進学・就職の進路結果や部活動の成績結果等に顕著な成果が見られる。全国的にも注目されている英語・国際理解教育や先進的な商業・ビジネス教育を中心に、学科の特性を生かした活気ある学校づくりを行い、選ばれる高校をめざす。また、入学者定員を充足するためにも、施設・設備や教材・教具等の改修・整備など、計画的に行いながら、事業の継続・充実に努めていくことが必要である。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	Ⅱ-7	施策名	特色と魅力のある学校づくりの推進
------	-----	-----	------------------

事業の 目的	学校独自の創意工夫に満ちた教育活動を推進し、特色や魅力ある学校づくりを進めます。
主要事業 今年度の	①学校の魅力づくりの推進
事業の実績と分析	①学校の魅力づくり事業の推進・・・学校の教職員や児童生徒による創意工夫のある教育活動に対して、補助金を交付して、学校の特色や子どもたちに愛校心が育つよう推進した。 26年度⇒魅力づくり事業予算100万円を運用して、各校の活動を支援した。 (東小:音楽活動、江部乙中:観光大使活動、第三小:ICT活用授業等)
課題	①学校の魅力づくり事業の推進・・・各学校の魅力づくり事業を積極的にPRして、保護者からの学校評価項目の対象として改善向上に取り組む。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 教職員の発想や子どもの要望に応える企画・立案が多くみられた。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 事業期間は、平成24～26年度の3年間で第1次計画としたことから、この間の評価が必要である。

事業の今後の方向性	政策・予算協議などの結果、補助金を交付する事業としては取りやめとなった。しかし、3年間で事業の基盤となる教材備品等を活用して活動の継続を図る。 ☐ 拡充 ☒ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☐ 継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	Ⅲ-8	施策名	特別支援教育の推進
------	-----	-----	-----------

事業の目的	障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組みを支援するとともに、学校生活や学習上の困難を改善し克服するため、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応した、適切な指導を実施します。
主要事業 今年度の	①個に応じた支援の充実 ②通級指導教室の充実
事業の実績と分析	①障がいのある子等の支援として「教育支援員」を配置して、安定した学校生活を送ることの支援に成果があった。 26年度⇒教育支援員7名配置 ②通級指導教室の充実・・・ことばやコミュニケーションに課題のある児童生徒の特別な教育を行う教室として、市内4校に拠点として開設し、自立支援の充実を図った。 (26. 5. 1現在における通級者 第二小16名・第三小32名・西小9名・明苑中16名 計 73名) ③通級教室について、道内の都市部の中でも、10校中4校の開設は、設置率が高く保護者や子どものニーズに合わせた支援に努めている。
課題	①通級指導教室の充実・・・通級設置校に通う児童生徒の負担軽減から、設置条件(通級人数等)満たせば新規の開設を推進する。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 学校生活の支援や通常学級との交流学习など、子どもの教育的ニーズの応えることが出来た。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか

事業の今後の方向性	個別の支援のいっそうの充実を図り、事業を推進したい。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	Ⅲ-9	施策名	不登校等問題行動のある児童生徒への支援の充実
------	-----	-----	------------------------

目的 事業の	不登校や学校になじめない児童生徒の学校・学級復帰を実現するため、登校への意欲化や基本的な生活習慣の見直しなどの支援を行い、自立心を持たせ、自信の回復を目指す指導や教育相談の充実を図ります。
主要 事業 今年度の	①適応指導教室運営の充実 ②教育相談体制の充実
事業の実績と分析	①適応指導教室の充実・・・個別の実態に即した学習指導やコミュニケーション力の育成が図れた。また、支援センターの機能や周辺環境を活かした体育活動・調理活動等多様な体験活動が実施ができ、活動の充実が図れた。 ②教育相談体制の充実・・・支援センター内に専用の相談室を設置したことにより、関係する保護者との教育相談や関係学校の担任との打ち合わせなど効果的に活用できた。また、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーと連携した教育相談も可能となり、きめ細やかな相談体制の充実が図れた。 ③不登校の人数では、26年度は大きく減少しており、学校と連携した事務局の取り組みにより効果が表れた。
課題	本市の児童生徒の不登校者数のうち、多くは自宅に引きこもる状態である。このことから教育支援課と学校が連携し、当該児童生徒への効果的な対応が課題である。また、複数年にわたるものもあり保護者と連携した対策が必要である。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 適応指導教室の児童生徒の学校復帰については、完全には実現できず課題があるものの、相談室登校などができるようになり、自立に向けてのきっかけとして効果があった。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 不登校児童生徒の未然防止のための、学校で初期の段階から保護者との情報共有を図る。

事業の今後の方向性	不登校教室の受け入れを近隣市町に拡大したことから、連携した対応を展開し、指導支援内容の充実を目指す。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	IV-10	施策名	地域の教育力を活用した家庭・学校への支援の充実
------	-------	-----	-------------------------

事業の目的	学校、家庭、地域が協力して子どもを育てる体制を整えるため、学校の教育活動における地域との関わりを深めるとともに、家庭や地域での生活を円満で健全に過ごすことができるよう支援します。
主要事業 今年度の	学校支援地域本部事業の充実(継続 ※平成26年度より社会教育課が担当)
事業の実績と分析	学校支援地域本部事業の充実・・・学校の教育活動に地域のみなさんがボランティアとして参画し、技術や技能を教育現場に提供していただいた。支援を通じて地域のみなさんと子どもたち及び教職員とが知り合うきっかけとなった。 主な支援内容→水泳学習授業、スキー学習授業、夏休み学習相談、田植え等稲作体験、部活支援等
課題	学校支援地域本部事業・・・支援する時間帯がどうしても昼間の授業時間となり、一般的な職務時間と重なってしまうことから、どうしてもボランティアの方々の年齢層に限られる傾向にあり、人材の確保が限定的になってしまいがちである。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 学校要望にできるだけ沿うかたちで支援はできている。しかしながら継続的な人材の確保を確実なものにするためにも、年齢層に限られることなく個人や団体とのつながりを図る必要があるが、その仕組みが不十分である。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか ボランティアの掘り起しを検討しながら、引き続き実施する。
B	

事業の今後の方向性	地域人材の確保に努め、学校の教育活動の充実を図りたい。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☒ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	IV-11	施策名	子どもに関わる施策や活動との連携
------	-------	-----	------------------

目的 事業的	幼児期の保育に関わる関係機関や子育て支援施策を実施している本市の行政部門と連携を深め、発達状況の実態把握と情報共有を緊密に行い、子どもやその保護者への適切な支援を推進します。
主要事業 今年度の	①幼稚園・保育所・小学校の連携の推進 ②子育て支援施策との連携
事業の実績と分析	①幼稚園・保育所・小学校の連携の推進・・・幼児の小学校への円滑な接続と個別の情報交換の機会として「小学校入学に係る引き継ぎ会」を実施し、連携を深めた。 ②子育て支援施策との連携・・・子どもの養育や発達支援に関わる業務を行う、市長部局との連携を深め、ケース会議やケースの家庭訪問など個別の実態に応じた支援を行った。 ③「幼稚園・保育所・小学校連携推進研修会」を開催して、連携や情報交換の内容についても研修を深めた。
課題	①幼稚園・保育所・小学校の連携の推進・・・発達に課題のある子の情報交換と合わせて支援内容についても協議し、就学につなげる体制を充実させる。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 個別の子どもとその家庭への支援や助言を、学校と市の関係部局が連携して取り組むことで、家庭環境や学校生活に安定を取り戻したケースがあり、効果を上げている。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 引き続き実施する。

事業の今後の方向性	幼稚園・保育所等との連携を深める取組みの充実を図りたい。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☒ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-12	施策名	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進
------	------	-----	----------------------------

目的 事業の	「いつでも・どこでも・だれでも」が学び、成果を生かした生涯学習を推進するため、生涯学習情報をインターネット等を通じて発信するとともに、学びの仲間づくりや成果発表の機会の拡充など、子どもから高齢者まで生涯各期の生き生きとした生涯学習活動を推進します。
主要 事業 今年度の	「子どもの育成」をテーマとした地域の仲間づくりの推進(継続)
事業の実績と分析	[事業の分析] 西地区青少年育成会は3泊4日の通学合宿、中地区青少年育成会は第一小学校児童との集団下校訓練を平成25年度に引き続き実施した。また平成26年度より新たに東地区と東滝川地区育成会は合同で2泊3日の通学合宿、北地区と江部乙地区は合同で風揚げイベントを実施した。東滝川の自然や丸加高原の自然等、それぞれの地区が各地区の“持ち味”を生かした事業を子どもたちに示したことで、子どもたち自身も自分たちが生活する環境を知るきっかけとなり、地域資源の価値を支援者として参加した地域のみなさんと共に再認識することができた。 [効果の検証] 「子どもの育成」というテーマは各世代をつなぐ力があり、事業を起ち上げる際に理解も得られやすいことが改めて確認できた。地域の子どものために実施した事業を通じて地域の大人たちの繋がりができ、その繋がりが地域の教育力を高める大きな一助となっている。
課題	事業を展開するにあたり各地区の“持ち味”を生かすことが大きなポイントとなるが、市街地にある地区は“持ち味”を表しづらい傾向にある。地区の“持ち味”を支援者たる大人たちがいかに気づいて事業に盛り込むことができるか。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 全市的な波及もあり、期待どおりの効果があった。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 各地区にて青少年育成会の自発的な動きが生まれているので、事業の見直しは必要ない。

事業の今後の方向性	青少年育成会を核とした地域づくりの流れができつつあることから、市内7地区青少年育成会が「子どもの育成」をテーマに地域の“持ち味”を生かした事業を通じて、地域コミュニティの強化につながるよう今後とも支援をしていく。 ☐拡充 ☐縮小・統廃合 ☒質的向上 ☐スピードアップ ☐検証 ☒継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-13	施策名	健康な心と体を養うスポーツ活動の推進
------	------	-----	--------------------

事業の 目的	生涯にわたり健康であるため、子どものころから心と体を養うスポーツに親しむとともに、スポーツ大会を通じて人々が集まり交流できる環境づくりを推進します。
主要事業 今年度の	①新コースで2回目の開催となる「たきかわコスモスマラソン」の市民参加者数の拡大及び市民の体力向上を図る。 ②B & G海洋センター北海道ブロックスポーツ交流交歓会を開催し、スポーツレクリエーション活動の振興と体力向上、健康増進を図り、道内の海洋センター及び海洋クラブ相互の連携と親睦を深める機会とする。
事業の実績と分析	①コスモスマラソンは、滝の川運動公園をスタートし国道12号を縦断し、石狩川河川敷を走る新コースで2回目の実施となった。開催日が、北海道マラソンの翌週となったことから、申込者数1,654人、参加者数1,525人と前年を下回る結果となったが、ランナーのアンケートからは「年々走りやすいコースになっている」「ボランティアの対応がよかった」など概ね満足していただいた。 ②B & G海洋センター北海道ブロックスポーツ交流交歓会は、北海道内の海洋センター・海洋クラブから選手97人、監督及びコーチ28人の参加があり、カヌー、ローボート競技を行った。強風という条件下であったが、選手は日頃の練習の成果を発揮し、併せて選手・指導者間の交流が図られた。
課題	「たきかわコスモスマラソン」は、国道12号線で折り返す3km・5kmコースについて、スタッフからコース再考の意見があった。また、ボランティアからも交通誘導等運営に係る意見が寄せられた。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか ①コスモスマラソンは、新コースで2年目の開催となり、ランナーのアンケート結果は概ね好評価であり、また、スタッフのアンケート結果も、概ね運営については、前年より改善されたと評価をいただいた。 ②B & G交流交歓会は、強風という条件下であったが、事故等もなく運営がなされ、当初の事業目的を概ね達成できたことは評価できる。
B	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか コスモスマラソンについては、ランナー・スタッフ等のアンケート結果を参考に、コースや大会の運営について見直しの必要があると考える。

事業の今後の方向性	コスモスマラソンは、ランナーの安全確保や市民がコスモスマラソンの実施に理解を示してもらえるよう課題を解決するとともに、ランナー又はボランティアとして、数多くの市民が参加してもらえる大会にしていきたい。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピードアップ ☒ 検証 ☒ 継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-14	施策名	文化・芸術活動の創造・育成支援
------	------	-----	-----------------

事業の 目的	市民による優れた芸術鑑賞事業や個性的な文化創造事業のほか、これらをけん引する人材育成事業を支援し、地域の文化力を原動力としたまちづくりを目指します。
主要事業 今年度の	①地域文化活動を支える市民との協働による鑑賞事業などの実施 ②学校を舞台とした芸術鑑賞や体験などのアウトリーチ事業の拡充
事業の実績と分析	①鑑賞事業については、滝川音楽協会等文化団体と連携し「航空自衛隊中央音楽隊」「淑女のロマンス」などの事業を支援したほか、NHKに要望し実施の運びとなった公開番組「民謡魂ふるさとの唄」も開催され、文化センターの集客数も伸びた。 ②NPO法人空知文化工房が主催した「公共ホール現代ダンス活性化事業」の一環として実施したコンテンポラリーダンスは第一小でアウトリーチ事業を行った。全身を使って表現するコンテンポラリーダンスは児童たちにとって初めての経験であったがダンスの楽しさを体験できた機会となった。
課題	①鑑賞事業においては通常、実行委員会等により運営がなされているが委員の構成がどうしても固定化してしまう傾向にあることから、人的な広がりが限られてしまう。 ②できるだけ多くの学校の児童生徒にプロのアーティストによるアウトリーチ事業を体験してもらいたいが、事業受け入れに対する学校の姿勢に差がある。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 音楽、NHKの公開番組、ひとり芝居、昨今の人気女優らによる演劇等、多岐に渡る分野の鑑賞事業を市民のみなさんに楽しんでいただき、公演目的は概ね達成することができた。 コンテンポラリーダンスのアウトリーチ事業は初めての試みであったが、児童も講師も満足度が高く効果があった。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 優れた鑑賞事業の安定した開催に向けた工夫をする。 プロのアーティストによる学校訪問は継続して実施し、多くの学校が体験できるよう働きかける。
B	

事業の今後 の方向性	地方都市でも質の高い文化・芸術活動に触れられる機会の提供を継続していく。 ☐拡充 ☐縮小・統廃合 ☐質的向上 ☐スピードアップ ☐検証 ☒継続
---------------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-15	施策名	文化財の保護・活用の推進
------	------	-----	--------------

事業の 目的	市民の財産である指定文化財を保存するとともに、それらを活用した講演会などの事業に取り組むなど、後世に文化財の魅力を伝える語り部の育成に取り組めます。
今年度の 主要事業	屯田兵屋屋根塗装工事の実施 牧羊用石造サイロ(丸加高原)改修工事の実施
事業の実績と分析	屯田兵屋及び牧羊用石造サイロの改修工事を実施し指定文化財の保護を図った。
課題	指定文化財は市の歴史を学ぶ上での貴重な資料である。保護活動は交付金などを活用し進めてはいるが、郷土学習においての見学、利用など文化財活用についてはほとんどできていない。 ※平成27年度より文化財の保護・活用に関する業務は、資料管理の一元化も鑑み、郷土館の所管部署である美術自然史館に移管。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 塗装、改修工事を施したことで保存状態が改善された。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 今後も文化財保護を進めていくとともに、活用についての仕組み(教材・人材)について進める必要がある。
B	

事業の今後の方向性	今後も「まちの財産」が消失しないよう、文化財として価値のある資料に光をあて、保存・普及していく。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピートアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-16	施策名	図書館活動の充実
------	------	-----	----------

目 的	生涯学習及び地域の情報拠点として、市民の課題解決に役立ち、様々な情報に触れることができる図書館を目指し、蔵書充実、読書環境整備、情報収集と発信などの充実を図る。また、豊かな心と考える力を育むため、子どもの読書活動の普及を推進する。
主 要 事 業	○生涯学習拠点としての図書館の充実 ○子ども読書活動の推進
事 業 の 実 績 と 分 析	■便利で役立つ立ち寄り型図書館として、非常に多くの市民へ、図書に留まらない幅広い情報を提供して、地域の情報拠点となっている。また、地域の本のセンターとして、図書館以外の場所での読書コミュニティの形成を支援して、本を読むことのできる環境が拡大された。さらに、ブックスタートにより、乳幼児期からの、絵本による親子の触れ合いづくりと読書習慣形成が進展した。 ・入館者数は16万人以上で、高い水準を保ち、貸出冊数は、全国平均と同レベルで、便利で役立つ立ち寄り型図書館として、市民に定着した。 ・連携展示は、市役所各課等との積極的な連携により前年の1.5倍となり、人の集まる図書館の情報発信機能が、行政と市民を結ぶツールとして活用されてきている。 ・子どもの読書活動の推進については、図書館学級文庫や、それ以外の団体貸出冊数が大きく伸び、様々な場所で本に触れる機会が増加することで、読書習慣定着に寄与している。また、新規事業のブックスタートは、赤ちゃん対象の絵本読み聞かせ会参加者が、前年度から10%増加したほか、赤ちゃん絵本の貸出冊数が7%増加するなど、効果が現れはじめている。
課 題	生涯学習拠点としての図書館の充実：今後とも継続的な蔵書の充実、ソフト事業の実施、積極的な情報発信により、情報拠点の機能を維持強化する必要がある。 子ども読書活動の推進：学校をはじめ地域・幼稚園・保育所等との一層の連携強化が必要である。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 入館者数、貸出冊数の数値は良好であり、生涯学習と地域の情報拠点としての立ち寄り型図書館が、定着したものと考えられる。また、子どもの読書活動の推進についても、一定の効果があがっているものと考えられる。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 市民に役立ち、利用しやすい図書館を目指すためにも、ニーズとともに特色のある蔵書の充実を図りながら、カウンターをはじめとした、親しみやすく暖かいサービスをより強化し、併せて、ソフト事業や連携事業、情報発信を積極的に進める必要がある。
A	

事業の今後 の方向性	生涯学習及び地域の情報拠点として、さらに「市民に親しまれ頼りになる使いやすい図書館」を目指して、基盤である蔵書の充実と各種サービスとソフト事業実施に取り組む。また、子どもの読書活動については、計画に沿った形で各事業を関係各機関等と連携を深めながら推進する。 □拡充 □縮小・統廃合 ■質的向上 □スピードアップ □検証 ■継続
---------------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-17	施策名	博物館活動の充実
------	------	-----	----------

目的	道内の博物館や美術館と連携し、様々な特別展や個性豊かな普及事業を開催するとともに、タキカワカイギウや岩橋英遠など収蔵資料の研究や関連資料の収集を進め、地域博物館としての役割を充実します。
主要事業 今年度の	①特別展の開催「岩橋英遠と北の日本画家たち展」「藤倉英幸 貼り絵の世界」「ダンボールノオホ～紙巨人のひみつち～」 「多摩美術大学版画展」 事業費 5,202千円 ②普及事業や教育普及活動の実施「デッサン会」「土曜リカ広場」「月イチリカ室」「わくわくサイエンス」「出前講座」など 事業費 602千円 ③岩橋ふるさと北辰振興会の活動支援と北辰の森・桜並木整備事業の推進 ④土曜日の教育環境を豊かにする「土曜リカ広場」の開催 ⑤遊びながら科学に触れる機会の創出と親子の交流拠点を目的に「春休み こども広場」の実施
事業の実績と分析	・入館者数としては、前年比223人増であった。企画展の入場者が減とした中、総体の入館者数が増えた要因として普及事業の参加者の増、年間パスポート持参者のリピーターの増、「春休み こども広場」(入館者 1,459人)の実施によるものと考ええる。 また、郷土館は前年比56.6%増の1,244人となり、年間パスポートの対象施設として加えた効果と考える。 ・企画展は、岩橋英遠に関連する展覧会が前年に比べ減少しているが、H25は授業の一環として観覧の受け入れを整えた違いで差が出たものと考ええる。今後は滝川市に関連する企画展の場合は、小中学校の授業の一環で観覧する受け入れが必要である。 ・こども科学館は、新たな事業として土曜日の教育環境を豊かにすることを目的に、小学校に出向いて科学実験等を行う「土曜リカ広場」を実施、こども科学館を持つ「教育のまち たきかわ」にふさわしい理科教育の推進が図られた。また、春休み期間中に実施した「春休み こども広場」においては、遊びの中で科学の楽しさを実感でき、公園が使用できない時期でもあり親同士の交流の場ともなり、子育て支援の一助にもなった。
課題	・学校との連携強化をより一層図り、地域の教育施設としての更なる活用 ・こども科学館の通年「こども広場」とした施設活用 ・アウトリーチ事業として実施している「出前講座(ちびはく)」を機に館に呼び込む仕組みづくり

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 企画展の関連事業や魅力ある普及事業の実施により、年間パスポート持参者のリピーターも増え、入館者増にもつながった。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 今後も魅力ある企画展や普及事業を継続して実施し、入館者の増に結びつける。あわせて博物館の使命である収集・保存・調査研究・展示にも取り組んでいきたい。

事業の今後の方向性	①文化勲章受章者である日本画家・岩橋英遠芸術と北海道の天然記念物であるタキカワカイギウを滝川市の歴史的な文化を代表するシンボリックな存在として発信し続けていく。 ②こども科学館においては、「月イチリカ室」「土曜リカ広場」など身近な科学の実験を通じて子ども達の科学に対する関心や興味を広げる事業展開を図る。 ③2階の常設展示室(3室)にピクチャールールを敷設して、市民ギャラリーやコンパクトな収蔵展としても活用できる展示室にし、新たな賑わい創出の場となる方向を目指す。
■拡充 □縮小・統廃合 ■質的向上 □スピードアップ ■検証 ■継続	

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-18	施策名	社会教育施設の整備充実
------	------	-----	-------------

目的 事業の	市民の社会教育活動を支える施設を整備するとともに、今後の人口規模や利用状況に照らし合わせた社会教育施設の配置計画を策定し、継続した社会教育活動が進められる環境づくりに取り組みます。
主要事業 今年度の	①スポーツセンター、青年体育センター、文化センターの耐震化等工事のスケジュールの明確化 ②陸上競技場の日本陸上競技連盟第4種公認更新改修工事 ③文化センター屋上防水、非常照明器具等取替えなど、既存施設の整備工事 ④サイクリングターミナルの廃止 ⑤総合福祉センターの解体
事業の実績と分析	①スポーツセンター、青年体育センター、文化センターの耐震化工事を含む大規模改修のスケジュールを明確化。避難所として重要性の高い青年体育センター・スポーツセンターの耐震化工事を平成27年度～28年度に実施することで進めるため、スポーツセンターの無償譲渡も実現するなど、社会教育施設の耐震化の今後が見えてきた。 ※スポーツセンターの無償譲渡により、旧スポーツセンターはスポーツセンター第1体育館、旧青年体育センターは、スポーツセンター第2体育館と名称変更。 ②維持する施設、廃止する施設を整理し、維持する施設は改修を進めるとともに、廃止する施設については解体を進めることができた。
課題	①スポーツセンター第1体育館、第2体育館の耐震化等改修工事は、緊急防災減災債（100%充当、70%交付税バック）を活用し、効果的な改修を行う方針を打ち出したが、屋外スポーツ施設の整備についての計画策定が必要。 ②文化センターを含め、文化ゾーンに位置する施設はいずれも改修の課題を抱えており、個別の施設改修ということではなく、ゾーンとして持続可能な施設運営を視点においた計画策定が必要。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか ①社会教育施設の耐震化等工事のスケジュールが明らかになり、スポーツセンター第1、第2体育館の改修が具体的となったことは評価できる。 ②「地域の元気臨時交付金」や「がんばる地域の元気交付金」などを活用し、施設整備を進めることができた。
B	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要あるか スポーツセンターに引き続き、文化センターを含む文化ゾーンのあり方について検討し、施設整備を進めていく。

事業の今後の方向性	体育施設ではスポーツセンター第1・第2体育館を平成28年度までに耐震化等工事を終わらせ、文化施設では、文化センターの耐震化の方針・スケジュールについて、スピードを上げて決定していく。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☒ スピードアップ ☐ 検証 ☐ 継続
-----------	--